

コーヒー摂取と肝がん発症リスクとの関連

Coffee consumption and the risk of primary liver cancer: pooled analysis of two prospective studies in Japan.

2005 年 International Journal of Cancer 発表

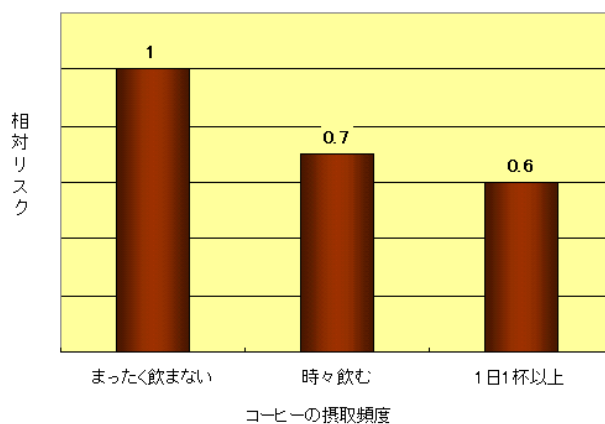
コーヒーを飲む人ほど肝がん発症リスクが低い

コーヒーによる肝がんの発症予防効果の可能性が注目されています。今までこれを示唆する研究が世界でいくつか発表されていますが、その有効性を本格的に検討するための前向きコホート研究は行われていませんでした。そこで私たちは宮城県コホート・三府県コホートのデータを解析して、コーヒーと肝がん発症リスクとの関連を検討してみました。

その結果、コーヒーを「まったく飲まない」と答えた人が肝がんを発症するリスクを 1.0 とすると、「時々飲む」と答えた人の相対リスクは 0.7、「1 日 1 杯以上飲む」と答えた人では 0.6 と、日常生活でのコーヒーの摂取が増えるほど肝がんを発症するリスクが低いことがわかりました。緑茶や紅茶にも同じ効果があるかどうか調べてみましたが、緑茶については、たくさん飲むほど肝がん発症リスクが低いという結果は出ませんでした。紅茶については、1 日 1 杯以上飲む人の数が少ないため解析できませんでした。

いずれにしても、今回の研究は、コーヒーに肝がん予防効果があるとする仮説を強く支持する結果となりました。今後は、コーヒーのどの成分が肝がんを予防しているのか、どんな人たちがコーヒーを飲むと肝がん予防に有効なのかなどの研究を進めていく必要があります。

コーヒー摂取と肝がんの発症リスク



研究データについて

ベースライン調査：解析には、宮城県内の 2 つのコホート研究のデータが使われました。1 つめは、宮城県コホートで 1990 年 6 月から 8 月に、宮城県内の 14 町村在住の 40-64 歳の男女約 5 万 2 千人に対して自己記入式アンケートを配布したもので、うち 4 万 7605 人から有効回答を得ました。回答率は 92% でした。

2 つめは、三府県コホートで 1984 年 1 月に、宮城県内の 3 町村在住の 40 歳以上の男女約 3 万 3 千人を対象に、生活習慣や健康状態などに関する自己記入式アンケートを配布したもので、3 万 1345 人から有効回答を得ました。回答率は 94% でした。

追跡調査：ベースライン調査に答えていただいた方のうち、三府県コホートの集団は、1984 年 1 月 1 日から 1992 年 12 月 31 日まで、宮城県コホートの集団は 1990 年 8 月 1 日から 1997 年 3 月 31 日まで追跡調査を実施しました。

その上で、がんの既往歴のある方、今回の研究に関連する質問への回答に不備のあった方を分析の対象から外しました。三府県コホートでは 2 万 2404 人（男性 1 万 588 人、女性 1 万 1816 人）が調査の対象になり、うち追跡期間中に 70 人（男性 50 人、女性 20 人）が肝がんと診断されました。宮城県コホートでは、3 万 8703 人（男性 1 万 8869 人、女性 1 万 9834 人）が調査の対象になり、うち追跡期間中に 47 人（男性 41 人、女性 6 人）が肝がんと診断されました。

コーヒーの摂取について

いずれのアンケートでも、コーヒー、緑茶、紅茶を飲む頻度、飲酒、喫煙、食事などの生活習慣、病気の既往歴などを尋ねています。肝臓病の既往歴については「肝臓病にかかったことがありますか」という簡単な質問を設けましたが、具体的な肝臓病の種類までは問いませんでした。コーヒーを飲む量に関する回答は「まったく飲まない」「時々」「1 日 1-2 杯」「1 日 3-4 杯」「1 日 5 杯以上」の 5 つから選んでももらいました。コーヒーの入れ方や、インスタントコーヒーかどうかなどは聞いていません。この地域の人々が飲むコーヒー 1 杯の分量はほぼ 150ml 前後でした。

研究の特徴と限界について

コーヒーを飲むと肝がんの発症リスクが低くなるという研究は、最近、イタリアやギリシャでも報告され、注目を集めています。ただイタリアやギリシャでの研究が、すでに肝がんを発症した人を対象に過去を振り返って調査した症例対照研究であるのに対して、宮城県の研究は一般市民を対象にした前向きなコホート研究です。比較的多くの肝がんの症例も含まれており、より信頼度の高い結果が出ています。また、他の条件の影響をできるだけ取り除いて解析し直した場合でも、結論は変わりませんでした。

ただし、肝がんに移行する可能性が高いB型、C型肝炎の既往歴は尋ねていないため、B型、C型肝炎にかかったことでコーヒーを飲まなくなり、コーヒーを飲まない人で肝がんの発生率が見かけ上増加している可能性があります。
